

⑨ 支川（荒川）

那須烏山市の西部を南北に流れる荒川は、他の地域では見られない雄大な蛇行を繰り返し、特異な景観をみせている。

荒川右岸の斜面には、ブナ、イヌブナ、ハルニレ、シノブカグマなど主に冷温帯に生息する植物が混じって見られる。このブナ林は、関東では珍しい低地ブナ林であり、氷河期以降に気温の上下の繰り返しにより冷温帯性植物が南下したものが、荒川からの北風に守られて現在まで生き残ったと考えられている。これと対照的に、荒川左岸・右岸の南向きの日向斜面では、アラカシ、サクライカグマ、コモチシダなど主に暖温帯に生育する植物が見られる。

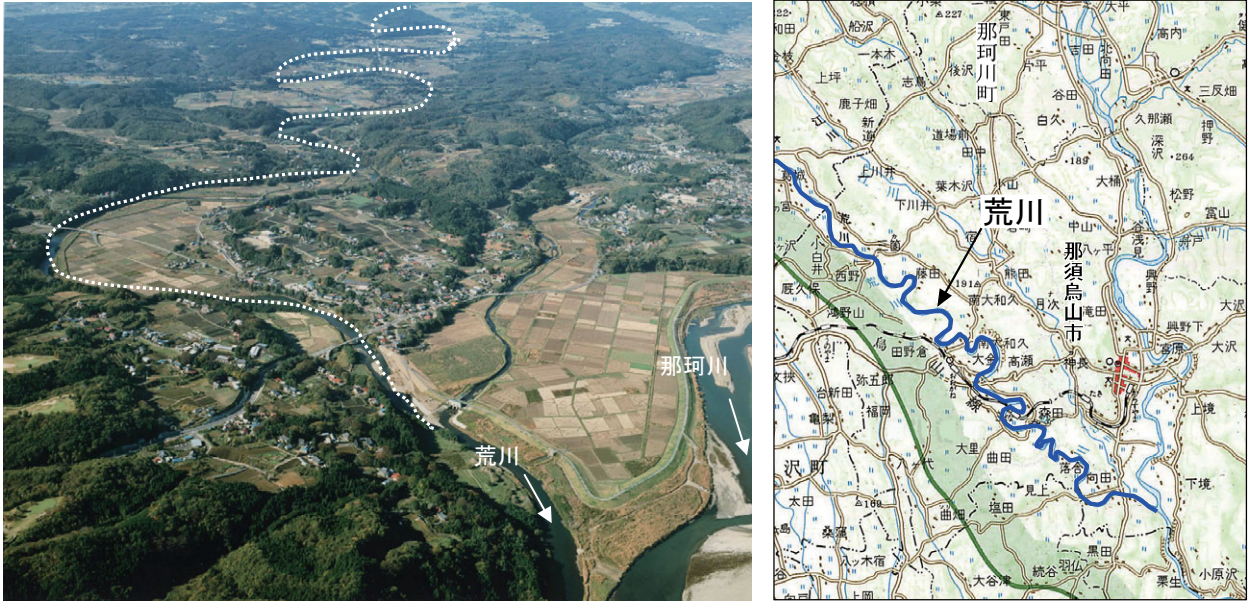


図 4-49 荒川の蛇行の様子（平成 15 年 11 月）

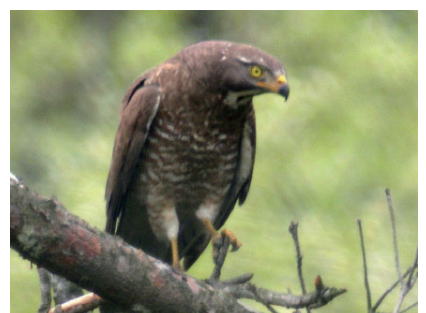
手入れの行き届いた雑木林とその周辺には、カタクリ、クサボケ、ニガナ、フデリンドウ、スマレ類等の里山の植物がみられる。また、オオタカ、サシバ、ヤマセミなどの希少な鳥類も確認されている。



ツボスミレ（スマレ科）  
（写真：榎日水コン）



クサボケ（バラ科）  
（写真：榎日水コン）



サシバ（ワシタカ科）  
（写真：榎日水コン）

図 4-50 荒川周辺の生物

荒川にはアユ、ウグイ、オイカワ、カマツカなどが生息している。周辺の水田の用水路にはシマドジョウ、ホトケドジョウが見られ、全国的にも珍しくなったメダカも報告されている。また、夏になるとゲンジボタルやヘイケボタルが飛ぶ。



カマツカ（コイ科）  
(写真：榎日水コン)



シマドジョウ（ドジョウ科）  
(写真：榎日水コン)



ホトケドジョウ（ドジョウ科）  
(写真：なかがわ水遊園)



メダカ（メダカ科）  
(写真：なかがわ水遊園)



ゲンジボタル（ホタル科）  
(写真：小菅 次男氏)



ゲンジボタルの光る様子  
(写真：小菅 次男氏)



ヘイケボタル（ホタル科）  
(写真：小菅 次男氏)



ヘイケボタルの幼虫  
(写真：榎日水コン)

図 4-51 荒川の生物



東荒川の最上流には、高原山系の釈迦ヶ岳に源を発する尚仁沢（塩谷町）の清流がある。この「尚仁沢湧水」は、昭和60年(1985)7月に環境庁(現環境省)の『全国名水百選』に選定された。また、平成7年には林野庁から『全国水源の森百選』の一つに選ばれた。

付近一体は高原山水源の森として、クリ・コナラ・ブナ・イヌブナ・コハウチワカエデ等があり、比較的原生林に近い二次林や、スギ・ヒノキの人工林によって構成され、豊かな自然に育まれて水が湧出している。尚仁沢上流部のイヌブナ自然林は平成18年(2006)7月に国の天然記念物に指定された。

沢筋ではトウホクサンショウウオが生息し、カワガラス、ミソサザイが見られる。水源の森ではサンショウクイ、オオルリ、キビタキ等の多くの野鳥の声を聴くことができる。また、良好な水辺環境に生息する水生甲虫類や、山地性の甲虫類が多く確認されている。中でも確認例が極めて少ないナカネダルマガムシが知られ、上流のイヌブナ林ではルリクワガタが確認されている。

高原山は奈良時代から山岳信仰の対象となり、信者たちが高原山に登拝する際、この尚仁沢（昔は精進沢とも伝えられた）の湧水で身を清めたと伝えられている。湧水量は日量



尚仁沢の湧水（平成17年9月）

65,000m<sup>3</sup>と豊富であり、水温も年間通じて11℃前後とほぼ一定で、冬でも凍結することがない。水質は天然アルカリイオン水で、冷たく軟らかいのが特徴である。



冬でも水が凍結しない沢（写真：佐藤 光一氏）

図4-52 尚仁沢の湧水